

令和7年度 第4回長崎市経済活性化審議会（会議録）

日時：令和8年2月5日（木） 14:00～16:00

場所：長崎市役所5階 議会第4委員会室

〔開会〕

1 報告

- ※ 長崎市経済活性化審議会規則第5条第2項の規定により、会議の開催には委員の過半数の出席が必要であるが、過半数が出席しているため、審議会が成立していることを報告。（出席委員は15名中11名）
- ※ 長崎市附属機関の設置等に関する基準により、会議を公開することを報告

2 新任委員の紹介

事務局から新任委員の紹介を行った。

3 議事

（1）パブリック・コメントの結果報告及び成案への意見聴取

（ア）事務局からの説明

事務局から資料に基づき説明

（イ）審議

【会長】

ただいまの事務局の説明についてご意見ありましたらお願いします。

【委員】

35項目の意見を8名の方が書かれたということですが、その8名の方々は偏りがあるのか。一見すると同じような考え方・書き方なので、8名の方の意見の割合や、特定の1名の方がたくさんの意見を言われているのかなど、どういう分布か知りたい。

《事務局》

パブリック・コメントをしていただいた方々の属性について、年齢的には大学生の方や、もっと年配の方という風に分かれているが、質問数としては、特定の1の方が非常に多くということではなくて、4～5問ずつぐらいが8名の方から出ています。

【委員】

内容を見て、すごく熱のこもった提案などがあり感動した。

【委員】

パブリック・コメントについて、かなり読み込んでいただいて、また上位計画である総合計画も読み込んだうえでの意見になっていると感じています。意見 19 番で施策 A-4 のところで、外側から企業を誘致するだけでなく、内部でバリューチェーンを強化して、地域内で循環する仕組みを具体化すべきという意見に対して、市側の答えが「様々な主体と連携しながら効果的な事業を実施していきます」という風に留められている。いくら収入があっても、外資の Amazon など消費したりしていると、域内の浜の町や商店街ではなかなか消費ができない。そういったバリューチェーンを具体的に考えた上で、産業面と生活面での視点が必要だと思う。

産業面でいくと、どの業種が強くて、どの業種に過不足があるという産業連関表というものが県にあるが、その業種は、県や市によっても違う。新たな産業を起こしていくことは、とても時間もかかるし労力もかかるが、長崎の強みを強化して、支援することによって回っていくという、具体的に産業連関表みたいなものを活用して戦略を立てていくことが必要ではないかというのが1つ。

もう1つは、生活面でお金を回していく仕組であり、長崎市が立ち遅れている DX、特に地域のデジタル通貨の導入ができていない。国でも物価高騰対策の給付金が臨時議会を通してでもやりますとなっても、一般の人たちにお金が回るのは3月以降ということで、デジタル通貨の仕組みをきちんと構築しておけば、明日からでも現物給付ができたと考える。

産業面での金の循環と、生活面での循環というのを具体的に戦略の中で落とし込む必要があると思うが、どう考えるかお伺いしたい。

《事務局》

今回のパブリック・コメントにおける意見の中でも多くみられたが、域内での経済循環を強く意識した計画にさせていただいている。地場事業を強化して、その力で外貨を獲得して、それを循環させていくというのは、まさに骨子である基本目標もそういう作りになっている。

生活面で言いますと、先ほどおっしゃった Amazon などのネットショッピングも含めて外にお金が出ていく部分はあると思うが、その中でできる限り域内で消費していただくために、プレミアム商品券なども含め、なるべく地域で使っていただく仕組みを考えながら施策を打っていきたいというところは、この計画の中にも反映させている。

産業的な循環や連携についても、今、誘致をしている様々な IT 企業と地場事業をしっかり繋げて色々な事業を生み出していくことも然りですし、造船業等が国の政策も含めて伸びていく中で、そのサプライチェーンの域内での構築や強化していくところも含めてこの計画に記載をさせてもらっております。その点はしっかり伸ばしていかなければならないということ認識して、今後事業の方は進めていきたいと考えております。

【委員】

ぜひ強力に進めていただきたいと思う。雲を掴むような戦略だと結果が評価されることもなく反省だけで終わってしまう。私が申し上げた DX の最大のメリットは、どういう人たちが、どこでどういった購買行動しているかというエビデンスや結果が全部手に入

ることであり、そうすると戦略の精度、解像度が上がっていったら、見直しのところでまた次の施策が見えてくる。イメージで話をしていくよりも早くそういうタームに入っていないと議論が議論で終わってしまうように感じるの、そこは見える化を進めていただければと思う。

【委員】

アウトプットとアウトカムについて、長崎市の考え方によるとアウトプットは公表できるけども、アウトカムについてはなかなか難しいという表現がある。結果の評価は直接的なものじゃなくて、年度ごとにどうなっているかということが必要だと思えます。直接的なことではなくて、段階的に進んでいったプロセスなのか、その中間でもいいからアウトカムについて評価の結果を示していただければと思っております。

《事務局》

今回、参考として追加している KPI の一覧にも、それぞれの施策に基づく指標を掲載しており、来年度以降、この審議会も年に 2 回ほど開催させていただきます。それぞれの施策の進捗状況を説明し、1 つ 1 つの事業の目標や結果をお示しができると思いますので、そちらで細かいご説明をさせていただければと思っております。

【委員】

成案 27 ページの施策 A-4 に関して、B to C をベースとして考えた時に域内サプライチェーンはこれでいいと思うが、B to B で域内循環させないといけないという考え方では少し無理があるのではないのでしょうか。完全にボーダレスになってきているので、そこで循環させるのは、かえって経済規模を縮めてしまう。B to C であれば、委員がおっしゃったようにエビデンスを伴う流通の評価を手段として地域通貨などを活用するという検討を入れると非常に追っかけやすいなと思いました。

特に今力を入れて誘致している情報系企業では、域内循環は無理だと思う。相手がワールドワイドになってくるので、もう少し考えられた方がいいのではないかなという意見です。重工さんについても、特に防衛産業で言うと、域内で回すというのは多分人材交流ぐらいで、資材調達・加工を含めても、域内は、ほぼ無理ではないかなと思うので、そういったところを違った分野からの取り上げという考え方が必要ではと思いました。

《事務局》

施策 A-4 については、域内だけでなくワールドワイドになっているので、域外の視点も必要ではないかというご意見かと思いますが、ご意見の通りかなと思います。造船関係は、市内だけでは完結せず、IT 企業の誘致も、基本的には東京本社の業務を長崎で受託しているような形になってきますので、施策 A-4 については域外の視点もしっかり織り込みながら進めていきたいと思っております。

【会長】

ここで、今回ご欠席の副会長から事前にご意見をいただいておりますので、皆様に配布させていただきます。こちらも参考にしながら、ご意見をいただければと思います。

【委員】

「豊かさ」をどう考えるかという点について、パブリック・コメントの意見3番や4番を拝見すると、「豊かさとは所得のことなのか」という問いかけがなされています。

意見21番に対する市の考え方において、第5次総合計画全体の中で「豊かさ」や「個性輝く世界都市」などが挙げられているため、本戦略においては経済的な側面における豊かさを指しているのだという暗黙の了解のもとに記述されているとは思いますが。

しかし、市民の方が読まれた際に「豊かさとはそれだけなのか」という疑問を抱かせてしまう可能性もあるため、豊かさとは具体的に何を指すのかという点については、より丁寧な説明が必要なのではと感じました。

《事務局》

パブリック・コメントにおける意見の最初の方は豊かさについてのご意見を多くいただきました。市民1人1人が感じる豊かさは千差万別だと思いますが、今回ご意見をいただいて、豊かさの中の1つとして所得の向上や、働く場の充実を書かせていただいた。感じられる豊かさは色々あると思うが、今回は経済成長戦略の中で主なものとして追記をさせていただく形で案を修正させていただいた経緯になっております。

【会長】

成案2ページ下部の記述については、パブリックコメントを受けて「就労機会の拡大」などが追加される形で修正されています。しかし、副会長が懸念されている本質的な部分は、戦略としての論理構成はあっても、それが市民に十分に伝わっていない点にあると考えています。資料全体が、企業の成長こそが成長戦略であるという企業本位の考え方に見えてしまっているのではないのでしょうか。

成案20ページの図にある「地域経済の基盤強化」「人が集まり育つ環境づくり」「域外需要獲得と高付加価値化による成長加速」の三本柱によって、「人や企業が成長と豊かさを実感できる活力あるまちづくり」を実現するというのが、本戦略の根底にある考え方だと思います。しかし次ページの「具体像」において、めざすべき姿から「R&D」「海洋」「交流」へと矢印が下りていますが、本来は逆であるべきではないのでしょうか。R&Dや海洋、交流の各施策を推進した結果として、活力あるまちづくりが実現するというのが本来の姿ではないのか。現状の「具体像がこれである」という示し方では、企業の利益さえ上がればよいという企業本位の考え方だと捉えられかねないような気がします。例えばR&Dであれば、産業が定着することで賃金上昇につながり、経済的なパイの拡大と生活の質が向上していくという意図が伝わりやすい図へ修正すれば、市の考えが伝わりやすいのではないのでしょうか。

さきほど委員が以前指摘されていた「外部から多くの人に来て、実感として落ち込んでいない」というのが現在の状況に表れているのだと思います。域内循環がどれだけ維持されているかが重要であり、外にお金が出てしまうだけでは、成長や豊かさには

つながらない。また、どうしても企業の方に偏った KPI となっていて、統計上の制約はありますが、実質所得で測ることを求める声があるならば、それに近似できる指標がないか模索する必要があるのではないのでしょうか。最初の戦略の趣旨だけで中身が変わらないと、なかなか変わった印象がないので、これをもう少し検討する必要があると思う。

【委員】

成長と豊かさは別に分けていいのではないかと思う。これを見た時に「人や企業が成長し、豊かさを実感できる」となると、成長＝豊かさに見える。豊かさも人それぞれ違い、また企業と個人でも違うので、会長が言ったように先に重点テーマを持ってくる形がいいかなと思っています。

《事務局》

成案 20 ページと 21 ページでは「基本目標」と「重点テーマ」について整理しています。まず「基本目標」についてですが、これは長崎市が基本的にどのような目標を据えて取り組んでいくかという、最初に考える大きな目標です。これは業務を遂行する中で、ある程度普遍的なものとして立てられるものです。資料では循環させているため三角形で表していますが、横に並べて見ていただいた際の各項目が「基本目標」に当たります。

一方で「重点テーマ」は、それぞれの基本目標を横断するもの、すべてにかかってくるものです。基本目標をめざしていく中で、今この時代において何に重点を置いて取り組むべきか、地域の実情も踏まえて設定したものが「重点テーマ」です。

ですので、我々も「重点テーマ」がすべてであるとは考えていません。あくまで重点的に取り組むべき事項として立てたものであり、これが一番の基本になるという考え方ではないので、現在の整理の仕方も、そのような意図に基づいています。したがって、重点テーマがそのまま基本になるということには、なり得ないと考えております。

【委員】

戦略の趣旨の「豊かさ」という言葉がウェルビーイングまで踏み込んでいるように見えるから誤解を招きやすいのだと思います。この戦略の内容は、以降のページでは特に企業の経済的豊かさが記載されており、それが個人の所得や豊かさに繋がってくるというロジックですよね。精神的な豊かさや教育までは求めていない。最初の趣旨説明の部分で「ここでは経済的豊かさに絞ります」といった整理をされた方が分かりやすいと思います。

《事務局》

先ほどの回答と重複しますが、「豊かさ」の捉え方は千差万別であり、どのように感じるかは個々によって全く異なります。今回、豊かさについての意見を多くいただきましたが、経済成長戦略というのを鑑みて、今回、趣旨に新たに加えた部分は、市民の所得向上や働く場の充実といった、本戦略の中でカバーできる範囲を主なものとして追記し、整理したものです。より適切な表現があるかどうかについては、改めて検討させていただきたい。

【委員】

趣旨は理解した上でのことですが、今の日本が右肩上がりではない中で、お金だけではない広い意味での豊かさを皆が考えていると思います。

例えば、ここでは、「豊かさは色々あるけれども、ここでは趣旨に鑑みて、こういったことやこういったことを実現したい豊かさとしてここから論じていきます」といった一言があると、もう少し分かりやすくなる気がします。

《事務局》

まさに今お話しいただいた通り、成案2ページの1番下から3行目にある「めざすべきところ」と「豊かさの表現」についても、経済に近い内容で掲載しております。今のご意見を踏まえ、もう少し良い表現がないか検討させていただきます。

【委員】

言葉の表現を丁寧に検討することはもちろんですが、一つ感じたのは、見せ方を工夫すればよいのではないかとということです。私たちは、行政の資料が最初に趣旨があり、これまでの経過、調査内容と順番に続き、重要なものが真ん中あたりに来るという構成であることを理解しています。しかし、パブリック・コメントでしっかり読み込みたいという方や、「一番重要なのは何か」を1分で知りたいという方に対しては、最初に成案20ページ、21ページの内容を見せてあげるという方法があるのではないのでしょうか。

おそらくプレスリリースなどを出す際にも、やはり成案20ページ、21ページの内容が重要になってくると思います。例えば、1ページ目の写真の代わりに基本目標の「丸三つが三角形に並んだ簡単な図」を載せて「詳しくは20ページ」と記載したり、21ページの重要な文言を三つほど提示したりして、「これからこれについて説明していきます」ということを、趣旨が書かれている成案2ページ目の右側に置く、あるいは改めて1ページ差し込むといった工夫です。

「重要なのはこれですよ」と先に見せてあげれば、言葉で説明する際に「それってどうということなの」と疑問を持ったまま読み進めることを防げると思います。回答の中で「成案20ページにあります」と伝えるのではなく、「これについてはこういうことです」という全体像を、最初に見せてあげた方がよいのではないかと感じました。

【会長】

委員のご発言についてですが、実際にエレベーターピッチなどを行う際は、1分で相手に伝えないことにはどうしようもありません。この写真よりも、内容の肝となる絵柄をここに大きく掲載した方が、より市民の方に対して親切であるというご発言かと思えます。

その点について、行政文書はこう作るしかないといった制約はないはずですが、市民にまず理解していただくことが第一ですので、そのあたりについて市の方でご検討いただくことは可能でしょうか。

《事務局》

委員からご指摘いただいた点は、非常に重要な視点であると考えております。この計

画の本体そのものは成案 20 ページほどあり、ある意味順序立てて構成しております。しかし、それとは別に、短い時間で趣旨を端的に把握したい方向けに、いわゆる概要版を作成することとしております。そういった資料においては、まさに委員がおっしゃった通り、一番見たい部分を冒頭に持ってくるような形で、柔軟に検討させていただきます。

【委員】

委員の皆様のご意見を伺いながら感じたこととして、本戦略は第 6 次となりますが、今後は人口が急激に減少していき、ここに記されているように、働き方も担い手も、形を変えていかないと、いよいよ危機的な状況になると考えています。

表現の仕方についても、行政は「これまでの取り組みを踏まえて、次はこうする」という積み上げ方式のフォアキャストで進める傾向があります。しかし、経営の現場では「目標を達成するために何をすべきか」というバックキャストで考えることが主流です。本審議会で議論している成案についても、「目標達成のためにこれを行い、そのために何をすべきか、いつまでに誰が何をやるのか」という視点が必要です。必要な要素はすべて盛り込まれていると思いますが、実際にこれを動かしていくのは経済界の方々ですので、そうした方々の思考に沿った資料にしないと、内容が伝わりにくいのではないのでしょうか。現状、本題が第 5 章や第 6 章に入っていますが、それ以外は資料編に回してもよいのではないかとともに思います。

表現の仕方については、ここにネタはすべて揃っていますので、あとはどう見せていくかだと考えます。先ほどの「豊かさ」の定義についても、一番のめざす姿である「人や企業が成長と豊かさを実感できる活力あるまち」における豊かさが何を指すのかを示す必要があります。ただ、これについては経済の側面だけでは達成できないと思っています。以前も申し上げましたが、長崎には他都市に負けないウェルビーイングとしての豊かさがありません。この戦略を動かしていくにあたり、ソーシャルキャピタルといいますが、長崎が持つポテンシャルとしての豊かさがここにあるから、経済を通じてそこをめざそうという立て付けが必要ではないのでしょうか。今回は経済成長戦略ですので経済がベースとなりますが、今の時代において、そうした視点こそが人から選ばれる地域や都市像につながるはずで、総合計画でもその点は謳われていますので、関連性をきちんと見える形にするための工夫が必要だと感じました。

【会長】

おそらく成案 20 ページと 21 ページは、所得の土台を膨らませるのと、いきがいや住みやすさ、自己実現などの QOL の向上によって、「人や企業が成長と豊かさを実感できる」というのが初めて実現する。ここでは、実質所得を向上させることによって、生活の選択を広げられるものであり、その裏側には、企業の利益が向上していく結果としてこうしたことが起こる、という姿が投影されているものになっているはずである。

決して実質所得一本ということではなく、QOL を含めた向上をここではめざすという建て付けであることを、分かりやすく示す必要があるのではないのでしょうか。

この成案 20 ページ、21 ページをどのように扱うかが、本戦略のまさに心臓部分です。ここを誤解されてしまうと、戦略全体が誤解されていってしまいますので、そこは慎重に考える必要があると思います。

【委員】

皆様のお話を伺って改めて思ったのは、見せ方の工夫も含め、その土台にある考え方についてです。今、人口減少や市外への流出、あるいは収入の減少が起こっているために、それが「豊かさを感じられない」という感覚に直結してしまっているのではないのでしょうか。私自身もその一人ですが、そうではなく、例えば人口が減り、少子高齢化が進んだとしても、ここに住んでいること自体は非常に生活的に豊かなのだという側面が必ずあるはずで、だからこそ、離島への移住を希望する方などもいらっしゃるわけです。現状の問題点と「豊かさがなくなること」を、あまりにも短絡的に結びつけすぎているように感じます。

人口が減り、県外流出が進んでも、豊かに暮らせる。豊かさとはこういうことなのだという前提を、これまでの審議会での議論も含め、もう少し見せる、あるいは感じさせる必要があるのではないのでしょうか。そうしないと、ここに掲げた施策がうまくいかなければ「皆が豊かになれない」「不幸になる」という風に捉えられ、一般市民が諦めてしまうことになりかねません。

表現の仕方と大前提を合わせた上で、結果検証に対しても、それが結果としてどうだったのかを示していくべきです。そうしたフォームがもう一つ必要なのではないのでしょうか。簡単に言えば、「左側にマイナスの部分がある一方で、右側では人口は減ったが、こうしたことがあったから豊かさは損なわれていない」というような要素を、5年間の計画の中に並べた上で、数値か文章かは別として、5年間ずっと追っていきけるようにすることも必要ではないかと考えます。

これは非常に根本的な、今までの議論とは少し異なる部分かもしれませんが、まさに「豊かさ」という言葉が実際に何を指すのかを、もう少し具体的、あるいは分かりやすく示すべきです。普通の市民が読んだ際に「収入は減ったけれど豊かだよ」「暮らしやすいよね」と思えるような内容、あるいは見せ方が、少し欠けているのではないかという気がしています。せつかく5年間かけて取り組むので、そうした点を改めてきちんと据え、一般の市民の方に分かりやすく伝えるべきです。「分かる」ということは「同意できる」ということだと思いますので、その要素が足りないのではと思います、何とかしたいと考えている。

【会長】

今の委員のご発言は、パズルの肝心な最後のピースが埋まっていないのではないかと、非常に重要なご意見だと思います。「豊かさ」がどのようなもので測れるのかという点です。

アンケート調査などの定性的な分析を行い、「これについてどのように感じたか」をフォローしていくにあたり、そのためには、そもそも豊かさを何で測るのかという定義を明確にし、そこをきちんと埋めておかなければ、いつまで経っても豊かさを実現するというものを測ることができないのではないかと、というご発言であったと受け止めています。その点については、もう一工夫が必要ではないかと考えます。

《事務局》

委員をはじめ、各委員から「豊かさ」について先ほどからご議論いただいております。

幅広い豊かさの捉え方として、経済的な豊かさはもちろん、生活面そのものの豊かさや精神的な豊かさなど、多様な考え方があることは、まさに今この場でも色々なご意見が出ている通りです。市民の方々からすれば、豊かさについてはさらに多種多様な意見が出てくるものと考えております。

先ほども申し上げた通り、表現の仕方については、市民の方々にできるだけ伝わりやすいものにする必要があると考えております。一方で、本計画の位置づけとしては、市の最上位計画である総合計画が、市全体のあらゆる事項を網羅しており、その中で経済分野の個別計画として策定しているのが本計画であるという位置づけもございます。そうした計画の体系も踏まえた上で、どのような表現が最も適切であるか、検討させていただきます。

【委員】

行政としても、この経済成長戦略を平成 20 年から今回で 6 次目として取り組まれています。第 1 次から第 5 次までの間に、この成長戦略によってどのような成果を上げてきたのか。今回の第 6 次に記されている部分も、戦略そのものが毎年成長していかなければならないと思いますし、小売業、製造業、サービス業でそれぞれ課題も異なるはず。それらを総じて、最終的に長崎の経済が活性化し、進んでいるということを、市民の皆さんに多少なりとも実感していただく必要があると思います。例えば、行政として、「税収が上がったことは市民の所得が上がったという判断基準になる」といった指標を示しながら経済活性化を図っていく必要がある。活性化して豊かになったと感じる基準は、100 人いれば 100 通りある。

本件はあくまで成長戦略ですので、何をもって去年より今年が良くなったとするのか。第 5 次の時も、例えば交流人口が増えたといった成果があったかと思えます。現在は民間が建設したスタジアム等に多くの人を訪れ、飲食業の売上が上がっているといった動きもあります。そうした成果を継続させながら、市民の皆さんに対してはどこを指標にして市はこの戦略を作っているのかということをごどのように示そうと考えているのか、お聞かせください。

《事務局》

委員からご指摘いただいた「市民が成長を感じるための数字」についてお答えいたします。今回追加した成案 34 ページ以降に、本戦略で設定している KPI の一覧を掲載しております。今まさに委員からお話いただいた消費額についても、例えば旅行消費額などは近年増加傾向にあります。そうした項目を一つの指標とし、今後も交流人口を増やすことで消費を促し、その結果として市内の企業や市民が潤っていくという流れを想定して指標を設定しております。

資料の上部にも記載しておりますが、例えば「法人市民税法人税割を課税された法人数」などは、利益を上げている法人の数を示すこととなります。そうした項目も大きな指標として持ち、まさに今おっしゃられたような経済の成長をめざして、我々も少しでも前に進めるよう尽力してまいりたいと考えております。

《事務局》

今、委員からご意見がありました「活性化」という言葉や、先ほど他の委員からお話のあった20ページの「めざすべき姿」における豊かさが様々あるというところを考えたときに、人口が減少したら豊かではないのかと言えば、決してそうではないというご意見もありました。しかし、本計画にあるように「人や企業が成長と豊かさを実感できる活力あるまち」をめざす上で、この「活力」という視点が非常に重要と考えており、人口が減少しても、この活力を維持していこうというのが本計画の趣旨であると考えています。

人口が減り、さらに活力まで失われてしまうと、豊かさや成長を実感することは難しくなると考えています。この活力を維持するために、具体的にどう取り組んでいくかというところで、今回 KPI を定めており、これらを達成していく中で活力を維持していくという形で整理しています。

こうした考え方を、市民の皆さんにもしっかりと分かりやすく伝えていくことが重要であると認識していますので、その点も調整しながら、本成長戦略を公開していきたいと考えております。

【委員】

この戦略も第6次となります。上位計画として総合計画がありますが、市内でもしっかりと連携を図っていただきたい。人口流出の抑制、雇用の確保、そして税収の向上は、すべて相互に繋がっていて、それらが一体となって向上していくことで、初めて市民の方々に経済的な豊かさを実感していただけるはずなので、すべての要素が連動していくべきだと考えています。

そしてこれからは「強い分野」と「弱い分野」を明確にする必要があります。強みを持つ分野については、長崎にお金が循環するよう積極的に推し進め、弱い部分については民間に補っていただく。あるいは民間同士が相互に協力し合い、様々な提案を出し合って経済を活性化していくというような少しでも実績が上がるような手法を考えていただきたいのですが、今回の戦略はそのような方針で進めていくということでしょうか。

《事務局》

ただいまのご意見が非常にごもつともでありまして、今回6次の計画ということでございますから、今までの実績や経験も踏まえながら、しっかり取り組んでいきたいと考えております。

【委員】

パブリック・コメントにおける意見3番で、「めざすべき姿」について、「豊かさとは所得が増えることを指しているのでしょうか。詳しく教えていただきたい」という質問に対し、市は回答として「所得の向上」や「企業の売上」について具体的に言及しています。

一方で、成案2ページの「戦略の概要」を確認すると、今回修正された箇所の最後から3行目に「市民の所得の向上や働く場の充実などにつなげ」とあり、その後に「人口

減少の克服、就労機会の拡大、税収の確保をめざすもので、」と記されています。

ここでお尋ねしたいのは、長崎市として市民の所得の向上を「めざす」のかという点です。資料の記述では、所得の向上は「つなげる」ものとされ、「めざす」対象は後半の人口減少抑克服や税収確保になっています。私の読み方が穿っているのかもしれませんが、パブリックコメントへの回答では「豊かさとは所得の向上である」という趣旨の書き方をされています。この「所得の向上」が戦略において「めざす」ものなのか改めて確認させてください。

《事務局》

今、委員からご指摘いただいた部分は、今回「豊かさ」に関して我々が追記をさせていただいた部分になります。

おっしゃる通り、現在は「充実などに繋げ」という表現になっております。前段に「市内事業者の労働生産性の向上などの産業基盤の強化を図るとともに、強みを活かした成長分野の育成や企業誘致を推進」とあり、それによって「所得の向上や働く場の充実に繋げ」、さらにその先に「人口減少の克服等」があるという記述になっています。

しかし、前段の施策を行うことで「市民の所得向上」や「働く場の充実」を達成していくという意味では、これらも一つの目標であることに間違いありません。現在の書き方では、委員がご指摘されたような捉え方もできてしまいます。先ほど「豊かさ」の表現の仕方についてもご指摘をいただいておりますので、それらと合わせて、より適切な表現を検討していきたいと考えております。

【委員】

成案 10 ページに「産業構造・労働生産性編」として、具体的な長崎市の地域経済循環分析が掲載されています。これは非常に専門的ではありますが、具体的な数字を明らかにしている点では分かりやすい指標だと考えます。この図の右上には、青い点線で囲まれた「地域住民所得」という項目があります。そこには、1人当たりの所得が407万円、全国平均が427.3万円であると示されています。

先ほどから「所得の向上をめざす」ということが趣旨として大きく掲げられていますが、長崎市として、この1人当たりの所得をどのように引き上げるかといった具体的な目標はあるのでしょうか。もし具体的な目標がないのであれば、なぜ「市民所得の向上をめざす」と謳いながら具体的な目標を設けないのか、その理由を教えてください。

《事務局》

成案 10 ページに掲載している経済循環の図について、この資料は国が公表しているデータに基づき掲載したのですが、ご指摘のとおり、現在の長崎市の状況は全国平均を下回っております。

最終的にこの所得そのものを引き上げていくことは、我々としても最大限めざすべき姿であると考えております。しかし、パブリック・コメントの中でも触れられていたように、実質所得などの指標は、行政の施策のみで直接的に上下させることが難しい側面がございます。そのため、実質所得の数値を直接的な KPI として掲げることはしておりません。

我々の施策によって直接的に大きく変化させることが可能な「製造品出荷額」や、先ほど申し上げた「MICE消費額」などの項目を着実に成長させることで、最終的にもっと大きなところの底上げを図っていくという考え方にに基づき、今回の KPI を設定いたしました。

【委員】

先ほど会長からも、成案 21 ページの重点テーマに関連して「めざすべき姿」から「重点テーマ」へ矢印が下りているが、実は逆ではないかというご指摘がありました。確かに、長崎市が経済の中に投入できる予算には限りがありますので、個別施策の目標を立てることは当然重要であると理解しています。

ただ、私個人の考えとしては、現在の「めざすべき姿」は言葉のみが先行しており、数値的な裏付けがないために、ややモヤッとした印象を与えているのではないかと感じます。例えばですが、あくまで「市民の所得向上」という言葉を掲げて戦略を策定するのであれば、会長のお話にあったように矢印の向きを逆転させ、「めざすべき姿はこうである」という大きな目標を明確に据えるべきではないでしょうか。そうすることで、パブリック・コメントで寄せられたような疑問に対しても、より分かりやすく、市民に伝わる戦略になるのではないかと考えます。

成案 10 ページに戻りますが、「生産・販売」として 14,478 億円という長崎市の売上規模が示されています。長崎市として経済を捉えるのであれば、こうした大きな数字に対してどのようにアプローチしていくのかを明確に示すことが、結果として「経済成長戦略のめざすべき姿」をより市民に理解していただくことにつながるのではないかと考えますが、いかがでしょうか。

《事務局》

先ほどからご指摘いただいている成案 21 ページの図中の矢印についてですが、この矢印は、「めざすべき姿」を前段の目標の中で確立した上で、それを具体的にどのような言葉で表現するかという意味合いで線を引いたものです。具体的には、3つの都市がめざすべき姿を構成するというイメージを持っていただくための表現でした。

今、委員からお話をいただいた所得や豊かさの部分については、皆様からいただいたご意見を踏まえ、書き方の修正を含めて検討させていただき、修正すべき点は修正を行い、市民の皆様にもより分かりやすく伝わる文言にしていきたいと考えております。

【委員】

収入などの目標を掲げるのであれば、数値を明確に提示すべきではないでしょうか。言葉を重ねるよりも、具体的な数値を掲げて可視化するしかないのではないかと感じます。

経済活性化を謳う戦略であれば、数字が明確に並んでいるものと思っておりましたが、現状では目標が曖昧であるという印象を受けました。

【会長】

委員が言われるように、KPI がこの戦略を測る指標として正しいかどうかは再考の余

地があるかもしれません。戦略を動かしていく中で、必要であれば修正を加えていただくなど柔軟にお願いできればと思います。それでは時間も来ましたので、皆様から頂いた意見を踏まえ、事務局で整理していただいた上で、最終的な案の整理については私、会長にご一任いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【会長】

それでは本日の審議会を終了します。

〔閉会〕